

# 高校生の模擬国連活動

—社会を変えるリーダーを育てる—



2019年4月

グローバル・クラスルーム日本委員会  
Japan Committee for Global Classrooms



# 私たちの事業

グローバル・クラスルーム日本委員会は、全日本高校模擬国連大会の運営および高校模擬国連国際大会への派遣支援事業を行っています。書類選考により全日本高校模擬国連大会の出場校を決定し、同大会で賞を獲得した上位8校16名を日本代表として、高校模擬国連国際大会が開催されるニューヨークに派遣しています。豊かな国際感覚を持つ人材育成の観点から8校のうち2校は地方創生枠として国際大会への派遣経験のない都道府県の高校から選出しています。

## 書類選考

世界へのとびら  
自ら国際問題と向き合う出発点

142校 430名



## 全日本大会

「知」の甲子園  
高校模擬国連の頂上決戦

69校 172名



## 国際大会

挑戦の舞台は世界へ  
本物の国連で知る「世界」

8校 16名



## 模擬国連とは

模擬国連とは、参加者が各国の大使になりきり、実際の国連会議を模した場で国際問題について議論する活動です。参加者は事前に担当国や議場、議題、国際情勢についてリサーチし、政策を立案します。会議では、スピーチや交渉を通して自国の立場を表明し、他の参加者と協力して決議を作成することで、国際問題の解決と国益の達成を目指します。グローバル・クラスルーム日本委員会は高校模擬国連の今後のさらなる普及・発展を目指しています。





議題と論点の例 第9回全日本高校模擬国連大会（2015年）

## 国際移住と開発

### 頭脳流出

<問題>

- ・ 国家の教育投資が送出国に還元されない
- ・ 開発を担う人材が送出国内で減少

<取り組み事例と問題>

- ・ イギリス：人材不足の国からの医療従事者の採用を禁止
- ⇒ 高技能労働者が国外でさらに高い技術を習得する機会を失う，人の自由な移動が制限
- ・ 帰還の促進
- ⇒ 受入国にとって移民の帰還を支援するメリットが少ない，移民は本国帰還の明確な動機がない

### 非正規移民

<問題>

- ・ 移民自身が生命
- ・ 人権侵害のリスクを負う
- ・ 受入国の正規入国制度に悪影響が及ぶ

<論点>

- ・ 非正規移民に対して各国が移民や難民として受け入れるかを定めるまでの対応
- ・ 非正規移民の発生を抑制する手段
- ・ 非正規移民を受け入れる入国制度改革の必要性の有無

### 困難に直面する移民の保護

<問題>

労働環境

- ・ 長時間，低賃金，過酷な環境下での労働
- ・ 人身売買，強制労働
- ・ 立場の弱さ、知識の欠如から労働環境の過酷さを告発できない

受入国民との関係

- ・ 差別に起因する排斥運動の激化
- ・ 文化の画一化・差別による文化的多様性の喪失



#### イタリア

- 人道的理由から，難破船などで入国する非正規移民を受け入れざるを得ない
- 経済的負担，国内世論の圧力によって移民の保護を十分に行えない



#### ヨルダン

- 隣国から移民・難民が大量に流入しており，先進国への第三国定住を促進
- 先進国は十分に第三国定住を受け入れられる状況にない

# 全日本大会事業

11月に開催する全日本高校模擬国連大会では、書類選考を通過した全国約160名の高校生が東京都渋谷区の国連大学に集結し、議題である国際問題について白熱した討論・交渉が繰り広げられます。

国際問題に正面から向き合う2日間。  
「模擬」に留まらない、現実へ昇華できる経験を。

私たちグローバル・クラスルーム日本委員会では、全日本高校模擬国連大会における模擬国連会議を設計するにあたり、会議を参加者同士の交流の場や議論スキルを身につける場としてだけではなく、国際問題に正面から向き合い、その解決のために考え抜くという体験をする場となるように提供できるよう意識しています。私が今年設定した「ジェンダー平等」の議題も、異なる価値観に基づく根深い対立をいかに乗り越えるかという、高校生には困難とも思える問題の提起でしたが、参加者は2日間の会議、またそのための綿密なリサーチを通じて必死に考え、解決策を提示しようとしていました。

会議設計にあたっては、国際社会の現状を示すことを常に意識しています。いま国連で話題になっているトピックを議題として提示し、過去の会議ですでに決定していることは何か、まだ合意が取れていないことは何か、これまで取られてきた政策は何かなど、「模擬」国連ではありながら、できる限り参加者が現実の国連活動に目を向けるよう、議題概説やリサーチソースの提供を行っています。そのため参加者は会議準備の中で、決議や報告書、議事録に至るまで多くの国連文書を自ら探し、読み解くことを行います。ジェンダーを例にとっても、女性のエンパワーメントはSDGsでも言及され、UN Womenなどが実際にアクションを起こしている一方で、LGBTの人権保障は国際的合意を得ておらず、共同声明や反対決議など激しい議論が繰り広げられています。そうした国連のこれまでや現在に目を向けてもらうことで、参加者のより深い理解や関心を誘起し、模擬国連を「模擬」国連に留まらない、現実の国際問題や国連活動にアプローチする活動へと昇華できるよう、会議を設計しています。



## 南 篤

東京大学3年（運営当時）

第11回全日本高校模擬国連大会  
会議総監督

## 参加者・高校教員の声

第11回全日本高校模擬国連大会に参加した高校生と引率教員（青）に感想を伺いました。



自分に自信がつくと共に、足りない部分も思い知った2日間でした。

開会式での中満さんの言葉にも「今皆さんがシミュレートしようとしていることは、世界の現実です。」とあったように、自分自身もこの大会を経験だけで終わらせないように努力したい。

学校の授業のように知識を詰め込まれるのではなく、意欲を持って自分で情報を調べる経験もとても新鮮でした。

1番に感じたのは日本の広さです。

もっと何かできたのではないかという後悔が残ったが、それに気づき、努力していこうと思った。

社会人になって求められる資質がこの大会に含まれて

いる。この大会に参加できたことに誇りを持って生きていきたいです。

事前に提出する課題も難易度が高く、自分で主体的に調べるといふ能力を今後に活かしてゆきたいと思う。

教養が深まる。  
全国の優秀な  
高校生と交わる  
ことでよい刺激  
となる。

大会が終わった後も、連絡先を交換した他国の大使たちと繋がって人間関係のネットワークを広げることができるというのも非常に大きなポイントだと思う。

成長する人生最大級のきっかけ

凡例

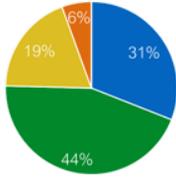
■ とてもそう思う ■ そう思う ■ どちらかというそう思う ■ どちらかというそう思わない ■ そう思わない ■ まったくそう思わない

参加者

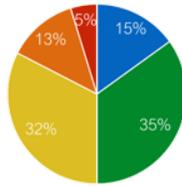
126名が回答

Q. 以下に述べるものが身についたあるいは伸びたと思いますか？

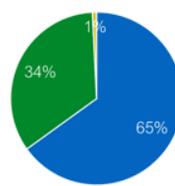
人前に立つ自信



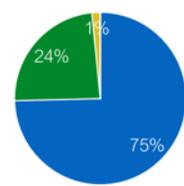
英語力



国際問題に関する知識



国際問題に対する関心

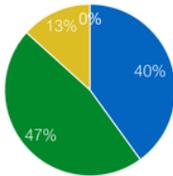


教員

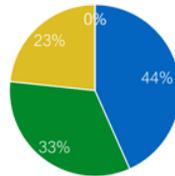
30名が回答

Q. 全日本高校模擬国連大会に参加した生徒を見て、以下に述べるものが身についたあるいは伸びたと思いますか？

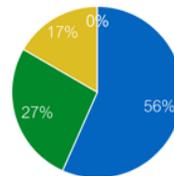
リサーチ力\*1



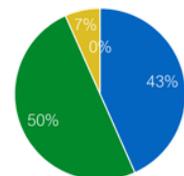
論理的思考力



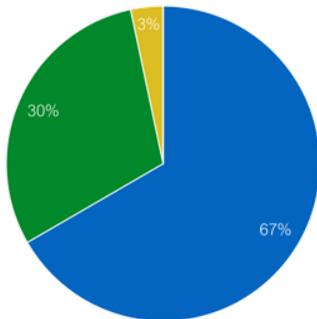
コミュニケーション能力\*2



意欲\*3



Q. 高校の先生の立場から総合的に見て、全日本高校模擬国連大会は有益な教育的プログラムだと思いますか？



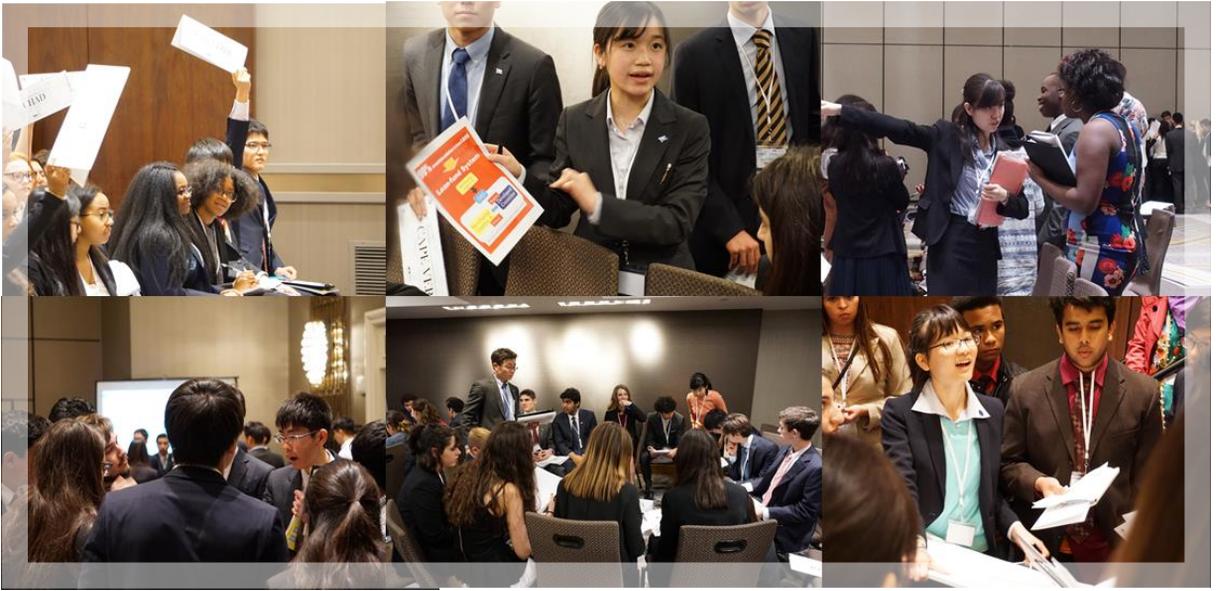
理由

普段の高校の授業内では身につけることができないスキル（集団を引っ張る、交渉する、集団に足りない役割を見抜きそれを補う力）が必要であることを自覚できる機会になっている。

正答のない時代を生きる生徒たちにとって国境を越えて様々な国民の意見の違いをまとめていく活動は貴重な経験になる。仮に日本を出ないで生活するとしても、より多くの意見を反映させて合意形成を目指すことは共生という視点から今後絶対に必要になるスキルだと思う。

\*1 書籍やインターネット、有識者などから、取捨選択しながら主体的に情報を獲得できる能力  
 \*2 他者の意見にしっかりと耳を傾け友好的関係を築きながら自分の考えを言語化する能力  
 \*3 勉学に対して・将来に向けた努力について・課外活動に積極的に参加する

# 派遣支援事業



米国・ニューヨークで開催される高校模擬国連国際大会に、日本代表団として6組12名の高校生を派遣します。派遣の際には、国際大会への出場に加え、大会で担当する国の国連政府代表部、国連日本政府代表部、国連機関事務所などへの表敬訪問を行います。また派遣中のサポートだけでなく、派遣前の綿密なリサーチの支援、派遣後の渡米報告会などを通して、派遣生の学びを最大化しています。

## 2019年度派遣支援事業日程

- 4/14：インフォメーションセッション  
(政策発表会・事前研修会)
- 5/7：羽田空港発・JFK国際空港着  
国連事務次長・軍縮担当上級代表  
中満 泉様 表敬訪問
- 5/8：国際労働機関(ILO)訪問  
国連デンマーク政府代表部訪問  
UNICEF訪問
- 5/9：国連日本政府代表部訪問  
UN Women訪問
- 5/10：国際大会開会式・1日目
- 5/11：国際大会2日目・閉会式
- 5/12：現地出発
- 5/13：帰国
- 6/23：渡米報告会



## これまでの受賞実績 (2007～2018年)

最優秀賞	2回
優秀賞	14回
PPP*賞	6回

\*ポジション&ポリシーペーパー

# 私たちの目指すもの

## 他者との協働を通して、社会問題の解決に主体的に貢献する人材の育成

現代社会は、ローカル・ナショナル・グローバルの様々なレベルで数多くの深刻な問題に直面しています。これらの問題はしばしば価値観の対立に起因し、その解決には他者と真摯に向き合うこと、そして問題の正確な把握に基づいた高度な策を要します。

しかし、現状の学校教育では、社会問題を解決する意欲・能力や、価値観が異なる他者と正面から議論するのに必要な力が十分に養われないというのが私たちの問題意識です。私たちの事業は、模擬国連という課外活動を通して、高校生がこれらの力の重要性を認識し、身に付ける契機を提供しています。それによって、将来の国際社会におけるリーダーを輩出することを目標としています。

## 模擬国連で養われる力

模擬国連会議で要求される能力は多岐に渡ります。参加者にはそれぞれ得手不得手があり、大勢を惹きつけるスピーチができる人、高度な英語を駆使して文章を書くことができる人、他人の話を聞き出すのが上手い人など様々です。そのように各自の魅力を活かして活躍できることは、模擬国連の教育プログラムとしての大きな特徴です。

その中で、私たちが高校生に特に伸ばしてほしいと考える力は以下の2つです。

### 1. 問題解決

模擬国連会議では、本物の国連と同様に、複数の国々が一つの問題の解決に向けて議論・交渉を行います。その一方で、各国大使にはその問題に関する自国益を達成するという責任があります。故に、模擬国連の参加者には、複雑な国際問題を構造的に理解すること、またそれに基づいて戦略的に政策を立案することが求められます。高校生は其中で、高度な思考力と国際的な視野を養います。世界のあるべき姿を考え、それを実現するために何が必要かを考え抜く経験をするのです。

### 2. 他者との協働

模擬国連会議において、国際問題を解決に近づけ、国益を達成するためには、他の大使たちとの合意を形成することが必要不可欠です。そのため、自国の政策を相手に効果的に伝え、他国の主張に耳を傾けて協力関係を構築した上で、解決に向けたイニシアティブを取ることが鍵となります。高校生はその過程で、表現力や傾聴力を身につけ、真摯に他者と向き合う態度を学ぶことになるのです。

# 模擬国連の先で

全日本大会と派遣支援事業を通し、私たちは高校生に対し“一度の経験で終わらせないでほしい”というメッセージを一貫して伝えています。模擬国連では、参加者の大多数が成功と同時に失敗を経験します。「あの国との交渉に失敗した」「スピーチがうまくいかなかった

た」「決議案が通らなかった」など、会議後の参加者からは受賞の有無に関わらず様々な声が聞こえてきます。しかし私たちは、それこそが最も大きな成長のきっかけであると認識しています。全日本大会後に参加者全員で行われるレビューや派遣支援事業後の渡米報告会では、参加者自身が「なぜあの時うまくいかなかったのか」という問いを、準備段階から会議中までを振り返りながら突き詰めます。自らを相対化し批判的に見つめ直すことで、初めて改善すべき点が露わとなるのです。このような経験を通して、参加者はメタ的な視点を持ち、成長を志す姿勢を身につけます。どのような環境でも常に自己成長を志す態度こそが、「他者との協働を通して、社会問題の解決に主体的に貢献する人材」となるために必要であると考えています。

## 「本物」に触れる

国連大学で開催される全日本大会では、国際連合や外務省の職員による基調講演が行われます。また、国際大会派遣支援事業では閉会式が国際連合総会議場で開催されるほか、中満泉国連事務次長や国連日本政府代表部などを訪問します。このように私たちは「本物」を提供することを大切にしています。高校生は、本物の舞台に立ち本物の話を聞くことで、「模擬」国連にとどまることなく、国際社会をより身近なものとして捉え、将来自分がいかにして社会に貢献して行くかを考える大きなきっかけを得ることができます。



## 数字で見るJCGC

3158人 .. 第1-12回 応募総数  
1530人 .. 第1-12回 会議参加者総数  
149人 .. 国際大会参加者総数

## 派遣支援事業OBOGの主な就職先

味の素、伊藤忠商事、外務省、資生堂、大和証券、テレビ朝日、日本貿易振興機構、丸紅、みずほ証券、三井物産、三菱商事、Deloitte Tohmatsu Consulting、McKinsey & Company、Morgan Stanley、Roland Berger 他

## より多くの高校生へ

私たちは過去12年間、高校生に質の高い模擬国連活動の場を提供し続けることを通して、主体性と高い能力を持つ人材を輩出し続けてまいりました。当初はわずか12名の国際大会派遣から始まった高校模擬国連事業ですが、現在では全国各地で多くの高校生が模擬国連活動を行っています。昨年の全日本大会には142校、430名の高校生からの応募がありました。模擬国連活動の教育的価値が認知されてきた今、今後はこれまで以上に多くの高校生に模擬国連活動の機会を提供していくフェーズであると考えています。

これからも長きにわたって高校生に模擬国連活動を提供していくために、ご理解とご協力のほどどうぞよろしくお願いいたします。



高校模擬国連国際大会への派遣支援事業OBOGの進学先

